



學術

エンドレス氏著林價算法

(承前) 伊藤 譯

以上の意義は土地の經濟的客觀なりされど土地を經濟主體に關聯し經濟的分配手段として考ふれば更に異なりたる意義を土地に附す可し

貨幣經濟と交易自由との條件の元に各種貨物の値は其所有者によりて收益手段たる能力によりて計量さるるを常とす即ち土地は其所有者にとりて資本の性質を有す土地の所有權が資本消費によりて取得せられ生産に於て其使用料が特に計量せらるゝに至りては土地の資本化は自然の數のみ常に土地所有者が金錢を以て其土地を交換するときは土地は私經濟的に資本と考ふ可し土地資本の一般的資本と相違する特性を列擧すれば左の如し

- 1、土地と製貨物との成立の相違
- 2、土地の場所的制限と普通資本の自由の増加
- 3、土地の永續的必要と存在とに對して一

般的資本の消費

4、土地の場所的固定と一般的資本の運搬可能

5、土地の比較的制限されたる用途と一般的資本の多種なる用途

以上の土地の特性のため經濟的地價は土地生産業に参加せし資本と努力との効力と獨立して計量するを得ずして生産の収益より資本と努力との効力に補償して後算出す

3 資本 A 定義

社會的經濟に於て資本の普通の定義なしヲグネル氏曰く資本と土地努力と對立して用ふるを以て消極的に定義して資本とは生産分配に参加して土地にもあらず努力にもあらざる生産要素なりと

之を個人經濟より見れば収利手段にして社會經濟よりすれば生産手段なり

通常資本を分ちて固定資本流動資本となす

B 資本の形態

林業資本の形態左の如し

- 1、森林蓄積
- 2、工作物、器械道具の類
- 3、交通運搬の裝置(道路、流水裝置、浮標)
- 4、林業に參與する人々の生活費即ち管理

費保費勞銀にして此等は其目的により分置せられたる資本の利子を以て支辨することなれり

5、賃租資本(此資本の利子を以て賃租の支辨をなす)

6、造林費資本

2乃至6の資本に付きては森林統計の基礎を論ずるところに於て數字的に述ぶ可し次には最重要なる森林蓄積に付きて述べん

森林蓄積

林木蓄積とは各立木の材積又は一團の林木の材積合計を云ふ

一般に人は林木資本と云ふ

經濟的に林木蓄積は流動資本なり

殖裁より伐期に至るまで林木價格の上昇は極小の資本の蓄積による其極小の資本の蓄積は年々其元資と共に林木となる

所謂作業級の林木蓄積は凡ての各種林木の材積合計なるを以て流動資本の合計に外ならず故を以て連年作業によりて經營さるゝ森林に於て毎年の公課金として用材を供するところの不動産として所謂法正蓄積を考ふ可からず

明治四十四年二月二十四日印刷
明治四十四年二月二十七日發行

編纂兼發行人 安井正夫
長野縣松本市本町百八拾四番地
印刷者 兎澤忠雄
全縣全交文社
發行所 長野縣立校友會雜誌部
木曾山林學校

○本誌目次

- 學術。エンドレス氏著林價算法、樹木の種子に就て、一樹一本農村青年の覺悟、
- 沿革。森林年中行事、
- 講壇。本多博士演職業の貴賤
- 文苑。一日遊記、冬籠日記、卒業生諸兄に、和歌
- 通信。學校近況、卒業生方向、

此用材は地代並に物質的資本、林木蓄積の利子の合計なるを以て外作業級の最老の伐木はより若き林木の生産さるるものにあらすして獨立して他の林木によらず成立す種々の林木を一つの有機的作業團にまで集合するは技術上の便宜の爲めなり其經濟的特性を少しも變更せず

林木蓄積と他の流動資本との間の相違は林木蓄積は永き期間(即ち輪伐期)の後初めて有用となることにあり

彼は經濟に於て他工業の流動資本より永き期間固定せらるる故を以て普通流動資本に對して長期流動資本の稱あり

社會經濟が固定資本に向つてよりも流動資本に向つて普通により高き利子を要求するは林木蓄積の經濟的特性は貴重ならず此理に基きて凡ての著者は林木蓄積は土地資本よりも高き利子を以て計上することをなす

此要求はされど正當ならず何となれば林木に於て利息の決定理由は此産業の特性によりて他の産業のそれより大に異なり而して長期流動資本は金銭市場の動搖によりて直接に作用されず

林木蓄積の評價として三つの異なりたる見方をなすことを得

(a) 現在材積が現下代表するところの市價此價は木材商業が賣買に於て表すところの費用價に屬す故に人は此材積の資本價を賣買價と云ふ

此價は金銭収入表の基礎並に次の種類の價に向つての比較標準を構成す

(b) 人は其生産に消費されざる可からざるころの費用によりて木材の資本價を算出す

(c) 又人は材木が其伐採に於て豫定する價格を確定し而して割引によりて林木が現在有するところの價を算出す

未來期待すべき資本價より此價は誘致せらるるを以て期望價と云ふ

賣買價に對する費用價並に期望價の特性は林木蓄積成立(費用價)又は使用(期望價)の時点より生じ計算的に誘致する大きさを示すにあり然るに賣買價は現在の材積の賣却によりて實現さるる市價なり

四、労働

労働とは或外部の目的に向けられたる人類の活動なり

かゝる目的として土地生産業に於て生産の目的に土地を利用するにあり

此に使用せられたる勞力が精神的又は肉体的作用の顯現としてあらわらるるに従ひ労働は技術的指導又は實行となす

即労働者を森林管理者と賃銀勞力者となす此意味に於て森林管理者とは伐木造林並に造道労働に交渉せざる凡ての管理機關を云ふ一般森林作業に於て林業以外の土地生産業に於けるより小量の労働を要す

これは管理に付きて又賃銀労働に付きても然り

技術的教育を受けたる職員は三千乃至四千町歩の森林を管理し經營することを得れども農業にありては林業と同一の面積を同數の人に管理し經營するを得ず

エヌテルライの國有林に於て八十九万二千八百四十一町歩に二万八千三百三十六人の勞力者の使用す

獨逸國に於て森林作業に於ける賃銀合計はダンケルマンによれば八千三百万マルクにしてレールによれば一億六千万マルクなり

合計獨逸に於ては森林労働によりて十九萬乃至廿三萬の家族が生活す

林業に歸因する労働の量は作業の集約により左右せらる

五、林業に於ける生産要素の割合

土地資本勞力は森林生産に於て同一の割合に於て配合せられず

各種要素配合の程度は粗放と集約の言葉によりて經濟的に云ひあらわさる

例へば經濟作業に於て少量にして安値の労働が要せらるるならば人は此を労働粗放と云ふ此に於て多量の資本を要するときは資本集約と稱す

通例人は經濟に於て少量安値にして生産力小なき生産要素を要するときに粗放なりと稱す此に反して多量高價にして生産力の大なる生産要素を消費するときは集約なりと稱す

樹木の種子に就て 西澤 靜人

抑も良苗木を仕立てんと欲するには先づ注意精撰を要するものは種子にして之れが良否善悪は實に後來の作業は勿論良材を得る上に大なる關係を有するものなり故に造林者は其種子の性質等に注意すること極めて緊要なることならん

第一 種子の性質

種子の良否は實に其成熟の度合、重量形の大小産地母樹の年齢其年の豊凶等に關するものとす

一、成熟の度合は其發芽力に最も直接の關係を有するものにして一般に早熟に比して晩熟を可とす殊に針葉樹すぎ、ひのき、きはら、もみ類にありて然りとす是等は其莖果己に稍淡黄色を帯び將に開口せんとする時期を過みて直に採集すべし若し此期に際し數日を後する時は其種子の散落することあるを以て注意せざるべからず

二、種子の大小及重量にして是實に種子の價値を定むるの一大標準となるものなり即ち大にして且重き種子は其小にして輕きも

のに比すれば甚だ良好にして是等は共に其發芽力の強きのみならず之れより生ずる苗木も亦外界の抵抗に強く其生長も甚だ強健なりとす

三、母樹の産地及年齢も亦種子の性質に關係を及ぼすものなり即ち土地豊饒にして礦物肥料に富み其枝葉充分の日光を受け且生長の未だ衰弱せざる壯年の時期にある母樹より得たる種子は經驗上良好なる苗木を生じ之れに反して地味瘠饒にして日光の透過せざる處に生ぜる樹より得たる種子は其結果甚だ不良なり

四、年の豊凶母樹の開花期若くは成熟期に際して氣象上の變遷は亦種子の性質及其生産額に大なる影響を及ぼすものにして若し成熟期に早に過くる時は往々未熟の種子を生じ開花期に雨天多き時は其種子を腐敗せしむること多し

第二 種子の鑑定法

前記種子の性質に應じて其良否を判定することを得れども尙鑑定法を述べば

一、肉眼検査法種子中に枝葉の混入することなきや否や或は其外観上の色澤香氣及び形狀等異なるや否や等を檢し其異なるもの若くは混合物多きは其種子の不良なるものと判定すべし又之れを切斷して其汁液に富みたる仁が種皮肉を充滿するや否や等を檢し其仁が充滿し且多汁に富める時は良好なる種子にして之に反するものは不良なり

二、浸水及投火法種子の比重水より大なる時は浸水試験を行ひ得べし即ち種子を桶内の水中に投して凡十二時間程経過して後尚浮ぶものを浮種子と稱して省き沈降せるものを沈種子と稱して良好なる種子となす

べし又火中に一定の數量を投じて其良否を知るにあり即ち一定の種子を火中に投入する時は良好なる種子は大音を發し不良なる

種子は僅かに小音を發するが若くは全く發音せざるべし尙是れに類する風選法粒選法等あれども省略す

三、重量法種子は其重量を以て良否を知ることを得べし即ち各種子の單位重量と比較して重きものは良し輕きものは不良となす例へばすぎ一升の重量は普通百八十匁以上なる故に檢定せんとするすぎ種一升を取り之を秤量して百八十匁以上なる時は良好となし之れより輕きは不良なり但し此方法によらんと欲せば勿論種子の充分に乾燥せる後を選ませるべからず

四、發芽試験法其種子の發芽の歩合に應じて良否を定むるにあり尤も此法に植木鉢試験と布片試験との二つあり即ち植木鉢試験法は「スヤキ」の植木鉢に輕鬆なる土若くは錫屑砂土等を入れ其中に一定數の種を播き其鉢の下端は水中に浸し種子を常に適度の濕氣中にあらしむるにあり布片試験法は「フランネル」若くは晒木綿に一定數の種子を包み其一端は常に水を盛れる鉢中に挿入し不斷種子に適度の濕氣を供給して發芽を促するにあり斯くして發芽の歩合によりて其良否を知るにあり但し其法はカウヤマキ、アラ、ギ、ウルシ、イテフ等の如く數月若くは一ヶ月以上の月日を發芽するに要するものには適當ならず

此他種々の方法あれども以上の何れか一法若くは數法を講じたらんには容易に種子の良否を判定するならん(完)

一樹一木

小松吉次郎

杉も亦他樹に類少き樹種にして園藝上の變種に「エンコウスギ」「クサリスギ」「チャボスギ」「クマスギ」等ありて庭園に栽培し

て賞玩をうく凡る園藝上價値ある樹は變種か若しくは畸形にして所謂不具ならざるはなしされば此の如き木を好むは恰も路傍に叩頭して憐みを請ふ彼の跛、盲、聾者を見て快とす箱也其心中や解すべからずされば余は「すぎ」の變種を好まず天空に停々と聳え立つ普通の杉を愛す而して杉は孤立して美点なく花も葉も見所なければ枝條の形狀自ら備はりて遠望して尙よく斯樹なるを知るは全く空形予形に似たればなり俗に「スギナリ」と云ふ言葉あるも之れが爲ならん、孤立して美ならざる杉は集團して鬱然其雄風を顯はし數百年を経て其黒き靜かなる威風は益々夫を加ふるものなり見よ紀の川の混々として絶わさる水上を、御物川の滔々として盡きざる水源を共に嚮着たる杉林の存在するにあらざるや此畫向は暗き杉林を遠望したるとき或は林内を逍遙したるとき眞に其美を悟り偉大にして壯嚴なる雄姿は之れに接する者をして必ず心中の悲哀を忘れしめ腦裡を冷靜にし百年の長計を思ひ浮ばしむ之れ眞の美点なりとす彼の「ゲイテ」が歌へる森林の妙へなる作用は我杉林に見ることを得べし

「森が靜か、靜か森が、梢は睡り鳥亦啼かず汝も暫く此所にぞ息へ」此の深き詩情は何處より來れるか、正しく此大森林の奥より漏れ出てたる印象にあらずや

論て我國杉の効用を見るに松、扁柏に勝りて各地盛に造林せらるるは其生長の速かなると加工容易なる重量の輕きと材質の美なるとにあるべし次表に收穫表の一部を抄録し及氣乾材一尺に對する重量を附記して參考に供せん次に我國杉の産地として有名なるは吉野、秋田、天龍、新宮、屋久島を主として小材に名あるは四谷、九太、京都、都、臺材と

す 楡柱に杉天井とは普通建築上の用途を示せども長家は全部杉材を用ふ天井板として名高きは薩摩杉、春日杉、神代杉にして薩摩杉は屋久嶋に産する杉にして種々波の紋鷲目の有を稱し春日杉は春日山の産にて前者に劣らざる美はしき木理あり神代杉が地中に埋没したる古代の杉材を云ふ共に何れも雅致多く四分板一坪につき拾五圓乃至拾圓の高價を保つ吉野杉は池田伊丹の美酒を益其味を美にするを以て酒樽の材として其名噴々たり秋田杉は板材及寸甫とし前者は東京市場に名あり后者は北越地方に種材として廣く用ゐらるる新宮杉は柱板類として一般に洗く使用し天龍杉は貫材として京濱の家屋に多く供給す四谷丸太は青梅地方の平地に造林し極めて集約なる保護手入れをなし丸太材として市場に出る美なる者は洗丸太に劣らざるは足場丸太となす杉材は京都府の産にて一株十數本の不定芽を生長せしめて小材を得るに勉む經一寸長六七尺の磨き丸太に製せられ可憐なる大原女の頭にはりて京都市場に出る垂木欄木に用ゐらるる材は此の如く廣く用ゐらるる外には葉は線香殊香の原料となり皮は屋根を葺きて雨を防ぎ腰壁に張りて板の代用をなす或は焼きて色を著け下駄となすときは軽くして美なり殊に太き暹ましき鼻緒をすげて庭前に用ゐられたるは特に可なり。

次に杉は谷扁柏は峯と云ふ俗言あり其適地を示すものなり土地深き適潤の地特に北向の山腹に最佳良の生長をさぐ暖地肥沃地は枝條を四五寸に切り挿すときはよく生長を遂げて大木となる九州地方の造林は多く此挿木法を撰ぶ、されど挿木造林より苗木を植栽するは良材を得るに適す。

最後に史上に現はれたる香椎宮の綾杉を附記して此項を結ばんとす。

香椎宮には神木として有名なる綾杉あり仲哀天皇の御柩を懸けられたりと云ふ又神功皇后が常に御衣を掛けられたりと云ふ兎に角三韓征伐の時に此地が其帷帳の跡にして其地に巨人の如き世に稀れなる綾杉の神木ありて皇后の愛し給ひしものなれば大に之を敬ひ給りて語り次くべきものなり世稱下りて隆家郷太宰府に二度成て後の度香椎に參りけるに神主が左の如く杉の葉を折て師のかうふりにさすことよめる。

千早振香椎宮の杉の葉を
ふたたびかざす我君が君
此れによれば此綾杉の葉は他の神社の眞槲の如く如何に重き儀式に迄も用ゐられしかを知るに足れり又大宰師が任に赴くや先づ此宮に詣りて其神木の綾杉の葉を神主より翳さるるを例とせしものなり如し其後薩摩の兵が立花の城を攻めし時天正十四年七月に本社及社殿は盡く焼失せしも此木のみ依然と其儘に昔を忘れぬ緑を變せざりき今も尚風餐雨飽に枯木となりて太き注連を廻らしたるは翠蓋天を蔽ひし昔を偲はしむものなり。

柳と聞けば枝葉は更なり幹までも婀娜やか

収獲表抄録

材積 (單位尺)	平均生長	一尺重
1 材積	31.8	31.8
2 材積	28.2	28.2
3 材積	24.5	24.5
4 材積	24.4	24.4
5 材積	43.5	43.5
6 材積	38.3	38.3
7 材積	38.3	38.3
8 材積	38.3	38.3
9 材積	38.3	38.3
10 材積	38.3	38.3
11 材積	38.3	38.3
12 材積	38.3	38.3
13 材積	38.3	38.3
14 材積	38.3	38.3
15 材積	38.3	38.3
16 材積	38.3	38.3
17 材積	38.3	38.3
18 材積	38.3	38.3
19 材積	38.3	38.3
20 材積	38.3	38.3

にて軟き矮小なるものと思はるれど「トカチヤナギ」「バツコヤナギ」は何れも喬幹にして葉長五六寸幅二寸余ありて二十余種のヤナギ中最遅ましく多くは温帯の山地に生育し材は裁板として名あり、而して普通廣く知らるるは濯木にて「ヒシヤナギ」「キツネヤナギ」「カハヤナギ」「コシヤナギ」「キツネヤナギ」「ネコヤナギ」「シダレヤナギ」にして多くは水邊に枝葉を垂下して水面に至り鬚根は水に洗はれて尚護岸の用をなす昔時隨陽帝河岸三千里揚柳を植て飾り舟行放逸を專にし或は「見渡せば柳櫻をこきませて都ぞ春の錦なりけり」とは王朝の盛時を偲はしむ彼の風新柳の髪を梳り水とては波蕩苦の鬘を洗ふの句は鬼神も感せしと聞く然れば柳の美は古より今に至り尙かはることなし三伏の炎熱金を溶かし身軀中に座すが如き盛夏の候額に玉汗流るるとき此木は恰も冷蔵庫の感を起さしめ風なくとも心身自ら冷かにして不知不知其木陰に息をつくべし西行法師の「道のへに清水流るる柳かげ」の句實に其美と徳とを併せ賞するものなりされど未だ其花の美を稱する音を聞かず「キツネヤナギ」「ネコヤナギ」の雪漸く消ゆし早春に流れ行く水の別れを惜むが如く又よごみなき流れを迎ふるが如く小さき綿の如き花白きあり黄みたるあり稍黒みを帯びたる紡錘状の花、見れば見る程光澤あり愛らしき花其しなやかなる赤き細き枝に咲きたる様は梅櫻桃、牡丹に比ぶべき價值あり一枝を手折りて花瓶に挿すときは長く凋むことなく新しき根は水中に白く延びて枯ることなく新芽は縁を添へて坐右の樂みとなすときは富貴なる牡丹爛漫たる櫻花に比して幾倍か長く慰むこと多からん、而して此木が最廣く二特性を表はすは砂防

地及護岸の作用にあり如何土壤に少く赤裸禿々たる山腹にも枝梢を挿木するとき忽ち根付きて枝葉を生じ深緑滴るの林相を形成するものなれば風雨に暴露して崩壊限りなき土砂を押し止するに適す或は水流の日夜兩岸を洗ひ去り水勢定めなき河川にしてよく再岸の砂礫を停止し護岸の効を奏すること決して他樹種の及ぶものあり或は蛇籠にあみ込むときは更に大に見るべき所あり、鐵線蛇籠も腐敗して用をなさざるに至りて柳は生長して活きたる蛇籠を形成するものなればなり。

史上に散見する柳は三十三間堂の棟は何人もよく記憶する所にして淨瑠璃にては中々複雑して茲に記し難けれど紀州岩田川の岸にある大柳を伐出し材は棟木にし其根より蓮花坊の欄體も出て後白河法皇の御病氣も平癒し伐木奉行平太郎も功勞を以て兵衛尉に任せられたと云ふ結末なり又甲斐國に於て此に類したる話あり國主武田晴信が信濃を攻めし善光寺の本尊を収めて歸國し里垣村へ新善光寺を營造す、其棟木は長二十五間なれば武威赫々たる晴信も懸命に搜索したれど容易に見出すべからず當時中郡筋高畑村に一株の老柳あり枝葉も殊に茂りて下に憩へる牛馬も形を蔽はるる程なり普請奉行山本勘助は直に之を伐らんと決しぬ、然るに此時附近の豪農某の愛娘ありて心優しく才敏く文讀むこと筆執る術も心得て父母も一段賞美して掌中の珠と愛しぬ然るに此家に毎夜忍び来る妖怪ありて其評判も人の口端に出するに至れり或夜例の妖怪來て娘に語るらく「我れは高畑村の古柳なり明日は愈新善光寺の棟木の料に伐らるる事と決しぬ、身後は佛法道場の棟木となるものなれば草木國土悉皆成佛の本文の如く疑なく得脱せんされど愛着執着は一時に斷滅す

ることなく運搬に千二人の夫を以て動かすも決して動かさざるべし其時御身が一聲の音頭を上げ曳き出すときは難なく板垣村に倒着すべし」と語りもあえず夢の如く耳に入る程に其影を失しぬ習日愈柳は伐り倒され數千の夫は運搬に掛れども一寸も動かす一同殆ど當惑せる時、彼の娘來て今様を唄ふ時其大柳は輕々と動き目出度善光寺の棟となりしと紀州の老柳は女と化し甲斐の大柳は男となり何れも寺院の棟木となりぬ。

す秋の野を歌ふものと其の差異如何ばかりぞや實に都會は人世の噴霧なりてう謔理なきに非ず思へば樂しきは農民なるかな然れども社會は一日と進み止まること漸くもなし進歩せざれば退化適合せざれば消滅何れか其の一ツに出でん宇宙の萬物此の支配の下を脱し永遠に安逸を求むるを得んや社會の進歩するに順ひ自給自足の時代は過ぎ自由競争の劇烈を加ふるに至り農業も又舊態を脱し純然たる世界的事業として經營せらるるに至り拱手無爲にして昔日の微を踏まんか生存競争の奮闘者となる加之其の傾向たる文明の發達と相共に増々甚しきを加ふるに至る。現時農村の患ふ可きもの多しと雖も經濟狀態の不振を以て第一となす農業労働者の都會集注果た中産農家の倒産頻々として耳にするに如何なるか即ち經濟組織不完全にして支出は収入に超過し一家の生計を維持する能はざるによる今米作にして其の價格四十圓に過ぎず此中より公租その他諸掛り肥料種子代及勞働賃金を控除するときは余す處幾何なるぞ加之我國の大部分を占むる小作農に於ては其の収益は地主及び小作人の分配に係る其の所得の僅少なを知る可きなり且生活の程度の上進は支出を多からしむ昔暗燈の光に糸を紡ぎたるもの洋燈に變じ蓄の上に座したるの備後表を用ゆ其の他家具裝飾品に至るまで驚く可き進歩をなせり若し維新前後今日之を比較せんか思ひ半に過ぐる物あらん加之價格の騰貴は多少農業の収益を大ならしめたりと云へども其の増加は生活の上進に比す可くもあらず斯くの如くんば農村の荒廢元より怪むに足らず茲に於てか第二の國民として立ち將來國家の責務を荷ふ可き青年たるもの猛省大に勉めざる可からず而して之

近時農村改良の聲四方に起り之れが施設方針に關する意見は種々の方面に表はれ漸く之れが研究を爲すに至る由來農は國の本なり思想は古より我國民の胸裏に銘せられ順つて古來より士農工商と稱し農を士の次に置れたれども時世の推移するに順ひ此の思想は漸次薄らぎ遂には商工立國を稱ふるに至る殊に我國の如く土地狭小なる國に於ては農を國是となすの不可なるを論ずるもの漸く多きを加ふ然れども此の論の不當なる平穩無事の時に於てはいさしらず一朝他國と干戈を交ふるの時に當り一國人口を維持するに充分なる食料を有せざるは何を以てか勝を制するを得ん殊に我國の如く四方皆海なる國に於てをや一朝制海權の他國の手に落ちんか戦はずして食盡き降を乞はざる可からざるに至る且つや農は強兵を供給す終日大厦高樓を並べ日光の反射悪しく塵埃を以て満されたる都會に塵食するもの朝に星を戴き鐵脚を撫し終日山野に出で清浄なる空氣を呼吸し己れの勉めに余念なく夕に月蔭を踏んで鎮守森影馬脊に春播秋収を唯一の樂とし萌出す春の野黄金色な

農村青年の覺悟

河野

近時農村改良の聲四方に起り之れが施設方針に關する意見は種々の方面に表はれ漸く之れが研究を爲すに至る由來農は國の本なり思想は古より我國民の胸裏に銘せられ順つて古來より士農工商と稱し農を士の次に置れたれども時世の推移するに順ひ此の思想は漸次薄らぎ遂には商工立國を稱ふるに至る殊に我國の如く土地狭小なる國に於ては農を國是となすの不可なるを論ずるもの漸く多きを加ふ然れども此の論の不當なる平穩無事の時に於てはいさしらず一朝他國と干戈を交ふるの時に當り一國人口を維持するに充分なる食料を有せざるは何を以てか勝を制するを得ん殊に我國の如く四方皆海なる國に於てをや一朝制海權の他國の手に落ちんか戦はずして食盡き降を乞はざる可からざるに至る且つや農は強兵を供給す終日大厦高樓を並べ日光の反射悪しく塵埃を以て満されたる都會に塵食するもの朝に星を戴き鐵脚を撫し終日山野に出で清浄なる空氣を呼吸し己れの勉めに余念なく夕に月蔭を踏んで鎮守森影馬脊に春播秋収を唯一の樂とし萌出す春の野黄金色な

れが救済の方法たる物心兩界に渡り消極積極の術を改良し收入の増加を計ると共に他方には於ては勤儉貯蓄を奨励し以て時代の趨勢に應ずるの覺悟なかる可からず

拔萃

林業年中行事(續)

- 一、雨天の節春種の爲破損したる苗圃及造林用の器具其他道具類の修繕をなすべし
二、春季に於ける苗圃及植樹事業に對し關係諸帳簿の整理をなすべし
三、床換濟の苗圃にして新芽延び始めたものに施肥を始め肥料の種類は豆油粕、米糠、餅粕、人糞尿及人造肥料等種々あるが故に能く畑地の土壌に適應せるものを選び宜く苗木の性状に鑑み適度に之を施すべし殊に播種床には極めて其分量の稀薄なるを要す
四、東京附近に於ては檜類其他常綠潤葉樹の床換をなす
五、雜草を生したる畑の草取を始め殊に播種苗圃の除草に注意すべし
六、苗圃の内外に於ける排水溝の浚渫をなすべし
七、朝夕絶へず苗圃を見廻り播種床發芽の模様、床換苗發育の状況及被害の有無に就き注意すべし

- 一、植樹は東京以北にありては本月を以て終りとす
二、岐阜地方に於ては本月を以て苦竹の移植時期となせり
三、新植地を見廻り倒れたる苗木を起す等手入をなすべし
一、俗に八十八夜の別れ霜と稱し尙本月上旬に於て晩霜の害を被むることあり特に稚苗に注意すべし
二、深山幽谷の杉、扁柏又は羅漢柏等の林は本月より六月に亘り往々熊の爲に剥皮の害を被むることあるを以て此季節に於ては時々空砲を發しつゝ林内を警戒すべし
三、林木の芽、漆、さいち、たら、のさ等)を食料として採取せらるゝの虞あるを以て注意すべし
四、東北地方に於ては本月より十一月上旬頃迄牛馬の放牧をなすを以て森林内に殊に新植地に侵入すべき虞ある箇所は之が防備に注意すべし
五、杉葉蟲の成蟲五六月頃現出し七八月頃迄杉、扁柏の嫩葉を食害するが故に注意して驅除すべし
六、栗天牛多くは本月に至り成蟲となりて産卵するに及び見發次第之を殺すべし
七、栗蟲(白毛太夫)の幼虫孵化して栗、樟等の葉を食害するが故に之を驅除すべし
八、樟の鐵砲虫其糞を外部に排出するが故に發見次第之を驅除すべし
九、樟葉虫の幼虫嫩葉の寄生して甚だしく樟樹を衰弱せしむることあるが故に注意すべし
十、櫻毛虫本月中旬より孵化するが故に之を驅除すべし
十一、「アメリカヤマナシ」の象鼻蟲盛

- 一、東京以南の地に於ては樹皮の剥き得るを待ち可成早く間伐に着手すべし
二、信州に於て落葉松の間伐は其材の剥皮を要するものは本月及六月を以て好季となす
三、山城國北山九太産地に於て盡杉の擇伐を行ふ
四、引續き秋季行ふべき主伐及間伐の實查をなすべし
五、深山地方を除くの外大概炭焼を終り炭夫は農業に従事す
六、福嶋地方に於ては本月より六月に亘りしな木を伐採して直に外皮を去りたる後精皮を剥き取り約十日間之を乾し更に十日間水に浸して上木灰を塗り約五時間煮沸して之を清水にて洗ひ乾燥せしめたるものを細裂して織物其他の原料となす
一、初旬の候より十月頃に至るまで蚊虻の如き毒虫現出する爲或は林内に於ける執業を妨げられ又は林野跋渉の際不慮の災厄に罹ることあり特に蚊は梅雨の候に多く蚊は八九月頃最も危険なり
二、太平洋に注ぐ水流に於ては本月末日迄小鮎の漁獲を禁止せり
三、熊類は五六月の頃交尾し妊娠八箇月にして翌年一二月頃分娩す其産仔數普通一二頭なるも稀に三頭に達することあり
四、雉鳩の類は五六月の頃に於て二三個

の卵子を産す

文苑

一日遊記

竹軒

春分の旦恰も日曜に當り日光特地に麗かに万象既に春に入れるを覺ゆ午前九時野君先づ來り叩き蓋昨宵の約を履みて寢覺の床に一日の清遊を試みんとするなり乃ち結束して相伴びて更に藤君の寓を訪ひ語ること少時にして遂に同君を拉し去る時既に十時を過ぎたり急がずば發車に遅るべしとて三人杖を連ねて疾行す道傍の店頭に鹿を並べて鬮く家あり又狐貂の屬を懸く山中の生計歴々眼にあり余は斯る光景を見る毎に胸底深く云ひ知らぬ幽情の湧き出るを禁する能はず西行は歌ひて曰く「軒近く馴るゝかせぎのけちかさに世に遠ざかる程を知らるゝ」

此線の初乗とす而も幸に遅れず且木君の偶々乗れるありて自ら東道の主人となりしは亦一快事ならずとせす眸を窓外に放てば近き山巒は雪皆消けて落葉松の褐色なるは松樹の緑に交り所々伐採せる所木材算を亂して倒れ恰も隣寸箱を覆せるが如し
福嶋より十町も走りしと覺しき頃第一の隘道を通過す此より道順に傾き車輪滑走して恰も飛ぶが如し既に木君忽ち叫びて曰く「御嶽」と聲に應じて其指頭に従ひて西方を眺むれば群巒僅かに開けて其奥見よ巖々たる雄峯は雪の衣を纏ひて天半に屹立し宛ら巨人の高踏して雲外に遊ぶが如きを時ら山角を掠めて雲煙の飛騰するを見る是れ豈山靈の咆嘯にあらざるならんや山腹以下は樹色滲滲紫色を帯びて雪と相映發し其の美云ふべからず即ち怡然として昨秋登臨の時を偲び更に俗語木曾節を憶ふ既に此亂山俄に眼を遮り崇高絶美の一駒はこゝに幕を閉ぢぬ賑下汪洋たる王瀧川の木曾川に會するを見ても間もなく前方に棧道の奇勝を望む近づけば數十仞の絶壁更に石を疊むと數仞にして鐵車は其上を走り行く窓に據て下瞰すれば絶壁下は即ち國道一線灣曲して弓の如く行人征馬豆より小に國道に沿へる木曾の深谿は一鏡の藍を流して幽味杳冥たり爲に神飛び魂驚く一行皆手を拍て奇と呼ぶ聲未だ絶えざるに倏忽として墜道の黒暗の中に没入し去る去るかと思へば復忽ち絶壁の上に出没たり溪流依然として碧に大石磊々岸を夾み或は層々相依り相援けて金剛の横に重りて半崩れんとするものゝ如し此間僅かに數町眞に咄嗟の間にして靜觀の逸なきは惜むべきなり
棧道の險を過ぎてより眼界稍潤く上松の瓦甍を望みて走る少時にして上松驛に達し此に下車す道程半時を費すこと二十分なり而

も途中御嶽の雪を眺め棧道の奇を度り景色幾變轉頗る行程の長きを感じぬ驛にて木君に別れ三人聯歩行々談す上松と福嶋とは戸口相匹敵し繁華亦相若く御嶽登山者の下車譯なるも二者同一なり而して上松は土地遙かに潤く且又名勝覺棧橋に近接するを以て或は今後上松の發展に刮目すべしと云ふ者あり夫或は然らん、然れども福嶋は古來木曾の首都たり思ふに將來も亦此の如けん見よ福嶋の鎮たる城山は豪宕雄偉霸氣自ら十分なるを
行く手に當りて亂山の上山骨稜々たる頭を擡ぐるは駒岳の支峰なり山樹鬱として墨の如く間々銀雪を挿む山上咫尺にして半梳の初月淡として夢より薄きを見る又一畫幅なり上松より半里にして寢覺の里に達す蕎麥屋の側の小路を下り行けば程なく臨川寺なり寺門を潜りて庭上より俯瞰すれば寢覺の大觀逃るゝ所なし蓋し谷底に至る數十仞兩岸の巨石相迫ること殆ど數尺溪流此に至りて湛々たる淵をなし一碧鏡の如く香として其深さを知らず此の如きもの數町にして兩岸漸く開け淺瀬雪を翻し奈々として去る恰も松籟を聞くが如し巨巖の上辨天の祠あり青松數株之を繞る對岸は青嶺亂立削るが如く鐵道は脚下の山腹に沿ひ蜿蜒蛇行して西墜道に入る車中の眺望亦想ふべし、蓋し棧橋は石皆圓加之歩して國道を行けば河幅潤く露水汪洋として頗る深穩の致に富めり寢覺は石皆方其水に臨むものは直截屏風を立てたるが如く溪流深刻迴かに前者と趣を異にす余が寢覺に遊ぶは此行に併せて前後四回なり最初の行は八年前にあり去年は五月に來り七月に遊び五月に來りし時は谿谷に下り大石を躡りて辨天の祠に詣り觀賞時を移しぬ七月に遊びし時は驟雨を寺に避け

幽雲の趣を眺め溪雨の奇を賞し寂々たる山中暫俗腸を洗ひにき今又此處に來りて此江山に對す江流永へに松籟の響を傳へ佳景莫として轉神を清ましめ骨を寒からしむ我性素靜を愛す靜は山寺に若くはなし若し余をして數日の閑を得て此寺に宿し山月水に宿り溪聲枕に上るの幽趣を恣にせしめば如何に心行くべき更に幽窓の中孤燈を挑げて終夜會心の書を讀まば如何になと思は止まらず願望停回之を久しし歸途切めても思出にとて繪葉書を雜僧に求めて寺を辭しぬ斯くて寺前の茶亭に憩ひ茶を喫し蕎麥を命り鳥驚を戦はしなごして日の傾くを知らず五時上松に戻り瀛車に投じて福嶋に歸れば街上漸く昏れて電燈既に燦たり互に一日の清遊を祝して手を分つ(二月六日稿)

冬籠日記

鐵丸

一月三日 起床午前十一時半最早晝だ顔や手が穢いので石鹸持つて水場へ行く尋常三年位の女の子供が二三人僕を一齊に朝寐妨々々々仕方がないから應戦してやつたナニ僕のは丁度よいのだから前が早いの子供石鹸使つてハイカラ、僕よい着物着てリボンつけてハイカラ、子供男ハイカラ、僕前達のとどうさん酒吞でハイカラ、僕母あさん白粉つけてハイカラ、三倍も彌次つてやつたスルト岸行寺の鐘がゴーン、子供オヤチ晝だ、僕朝飯だ、世の人々は自分の事は言はず他人の事は悪く言ひたがる者だ、自分は利己主義金力主義貪欲主義を實行して居ても天上天下唯我獨尊

た者があゝ、見ると日君が大狼狽火事は何處と問へば分らんと云ふ、オイ戯談ぢやない今日は消防の出初式だよ、外には喇叭の音がする喧嘩ひい!!一日中眠むい思ひをし、斯うした間達は腹立しくもあり可笑しくもある大事も小事より起ると云ふ事かある

卒業生諸兄に

福田 幽美

濱の真砂の數はどれども離別より悲しい事はありませぬ、「風蕭々易水寒し、壯士一たび去つて復還らず」あゝ古の英雄でさへ離恨綿々として長へに情えず、哀別の情緒は糸れて糸のようではありませぬか、まして情に脆い私等にはげに不如歸血を吐く思はず

週間餘の旅行が終へて歸れば旅籠中の景色や感想を語つたのですもう一學期の試験が來れば暑さが厳しくつて室に居ることが出來ぬからいつも緑翠滴る御料林の檜林に入つて、生え茂つてゐる芝生の上にもろびて讀書に耽つたのも兄等と私等でした七草の咲く頃になると夕露のたくさん降り、木會河畔に詩を吟じ、金比羅山の紅葉狩にも出かけたのです御嶽嵐吹きさび、六花繽紛として降る頃は基を打つたり歌留多を取つたりしたのも賤が芋環くり返し昔を今になすよしもないのです

も木會に練磨せし手腕を以て驅逐して母校や私等に絶えず吉報を齎らせて下さる事を願ひます、私等も社會に出た節には充分な御指導を給りたいのです木會川の水は無心に流れてゐます、然かし彼れはどこしへに盡きません御嶽山の英姿は巍然として雲表に聳えてゐるので

和歌

春 雨 安井 正夫

しづけさのかりしられぬはるさめにたどろくはかりきゆるゆきかな

さくうめのはながささしてうくひすはけうもひめすあめになくなり

田嶋佐兵衛ぬしの母君が八十入齡の祝ひに招かれ席上よめ

すこしてしやうちはいまだふもとたてもちのみねもきみはこゆらん

鬼狩八首 竹 軒

雪びやの庭のあは雪くゑちらし

俳句

岫 雪

春雨や軒の梅折る蓑の人子供出て戦つこや春日和山人に爐をふたがせて春雨

通信

學校近況

○二月廿二日午後より校友會例會開會被致來學年度校友會役員の選舉有之三時終了閉會致候追て役員は校長の認可を得て任命せらるべく其際發表可致候

く地之利を得ざるに由ること存候只木曾の谷虎狩に適する地を發見するに苦むは致方も無之事と存候

寄宿舎より申上候

鉄丸 記者

常寄宿舎にはたいした變りも無之類の平穩に御座候、さりどて大平樂と云ふ有様にて

卒業生諸君雜誌費領収報告

壹圓宛竹内房太郎君、北澤時三郎君、由尾忠助君、四拾錢甲田林君、參拾九錢宛小林

卒業生方向

第一回卒業生

- 東京府西多摩郡水川村 遠藤 宗作 (林業技手)

- 第二回卒業生 兵衛美方郡 美方郡岡町 杉本 貢

- 東筑摩郡片丘村 中嶋 源一郎

- 石川縣珠洲郡 池井 深一

- 石川縣林務手 温井 誠一郎

- 北米合衆國マロマ、アア地帯 松原 秀吉

- 青森縣大田郡 西野 入徳

